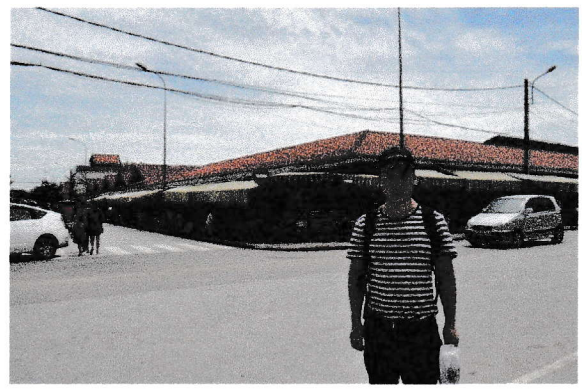
カンボジア旅行について 6

高橋　亮

皆様こんにちは。今回もよろしくお願いします。アンコール遺跡から戻った私達は、アプサラダンスを、夕食とともに見物させていただきました。

この踊りの継承者は、かつてのポル・ポト派の大量虐殺により、ほとんどいなくなってしまったらしく、このカンボジアという国が、凄まじい過去に翻弄されていたことがうかがえます。なんでも、ポル・ポト派は、富豪や知識人・学者・障碍者といった、あらゆる人々に敵意や恐怖を抱いたらしく、人々を苛酷な労働に向かわせたり、抵抗するものは、次々と殺していったみたいです。一部の権力者による、独裁政治というのは、歴史のなかでは珍しいことではありませんが、私達日本人はそれを過去のものと錯覚してはいないでしょうか？権力というものは、誰しも握ってみたいものですが、権力者はその狂気とどう向き合っているのでしょうか？カンボジアであったことと、嘗て日本であったこと、それらをくぐり抜けて創られた、繊細な平和な世界、それらは私達が守り、育てていかなければいけないものですね。

話が脱線しましたが、アプサラダンスは無事見物できました。あらすじはガイドブックに譲りますが、アプサラダンスに込められた人々の思いを考えてみたいものです。また、カンボジア旅行の料理のなかで、この日の料理が一番おいしかったような気もします。



さて、旅行第４日目は、オールド・マーケット？という市場を訪れて、お土産を探しましたが、値段に気を取られるあまり、買い損ねてしまいました。やはり、海外旅行には、金銭的余裕をもって出かけるべきですね。そのあと、萩森先生の知り合いの方が暮らしているらしいお店を訪れて、いろいろな話をしました。そこで、会社の方に持参するクッキーを買いましたが、そこでの話はまた次回に宜しくお願いします。